

2022年3月30日

令和 3 年度孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム事業ワークショップ

多様な居場所とその役割

宮本太郎(中央大学)

1 なぜ居場所・つながりか？

＊ 孤立社会日本？ レガタム研究所「繁栄指数」(2020年) 日本は全体としては19位だが、人間関係や地域住民の絆の豊かさを指す「社会関係資本」が140位

＊ 居場所・つながりは、幸福の最大の決定要因(イースタリンの逆説)、健康の条件(「孤立の値段は4・7兆円」等・・・)、地域活力に直結など効果は甚大

＊ 関係が濃密すぎるゆえに敷居が高くなる(日本の経営)、気を遣いすぎるゆえに「関係疲労」をおこしやすい(日本の地域社会)、ゆえに、孤独・孤立まねきやすいという逆説にどう対処するか？

2 居場所・つながりをつくるとは？

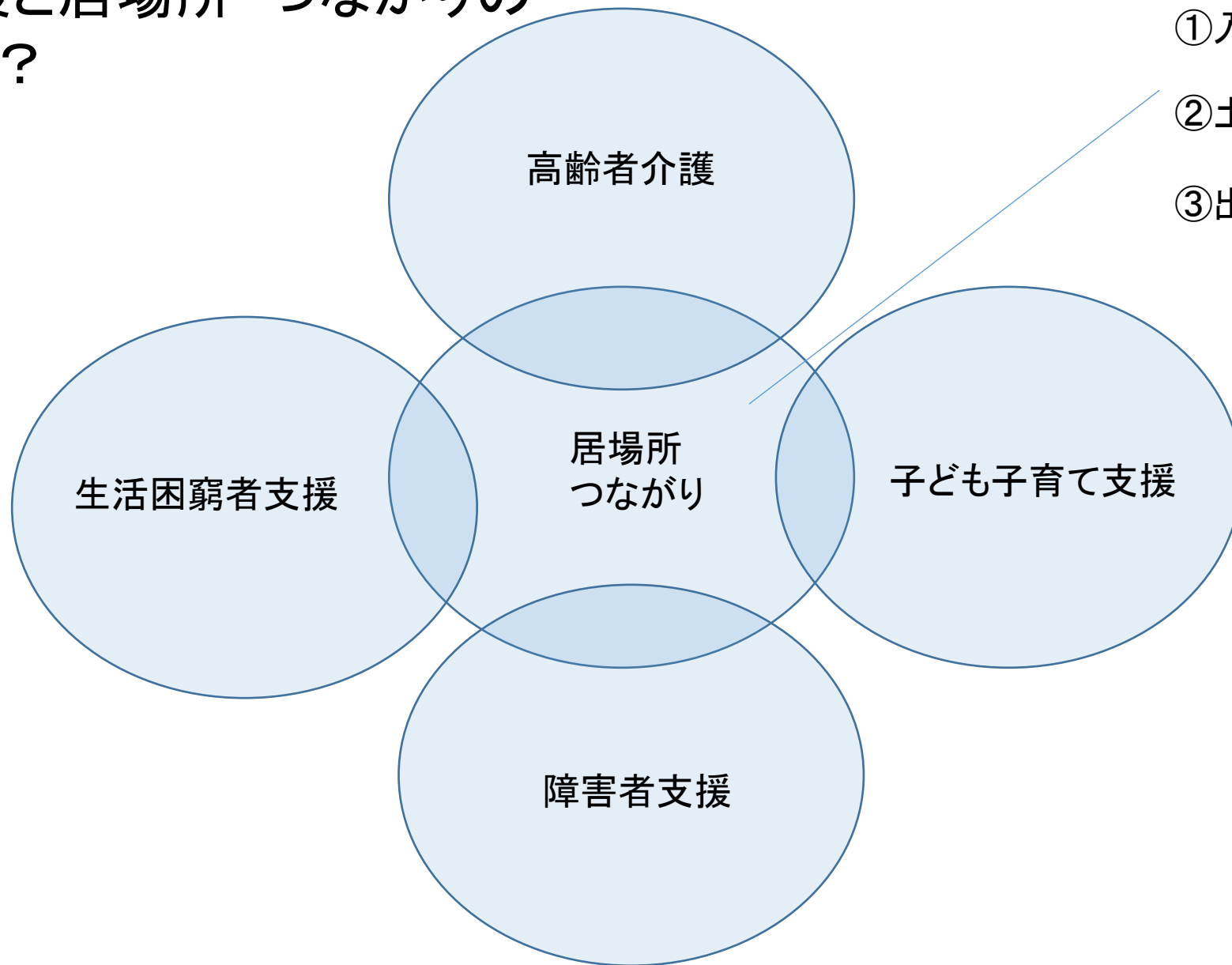
1) 居場所・つながりは誰にとっても元気の源泉 多様な支援の条件になるからこそ、「つながり自体」として評価される(KPIになる)必要 実はそこで初めてSOSが聞こえてくる場合も

2) 居場所・つながりにはしばしば「ダシ」が必要

3) 居場所・つながりは大事すぎるからこそ心が折れる原因にもなる 選べること、複数あること(サードプレイス等であること)が必要 「テキトー」なつながりも大事

4) 居場所・つながりづくりは、行政、NPO、社会福祉法人、地域等の協働作業

3 支援と居場所・つながりの関係は？



①入口 SOSが聞こえる場

②土台 支援が成り立つ前提

③出口 元気になる場、つなげる先

4 多様な居場所・つながり

- 1)「目的」からのつながりか、「一緒にいる」ことからの目的設定か
- 2)「同じ」からのつながり、「違い」を楽しむつながり
- 3)「現実空間」でのつながり、「バーチャル空間」でのつながり

要するに…

居場所・つながりは、行政の縦割り、官と民、目指す社会のあり方の相違を超えた地域づくりの「共通言語」

多くの立場が実は同じことを目指していたと気づけば、地域の力は一気に高まる